よんでみたいな！

３・４年生



『おおわる　おおかみ　おとぎ話をかがくする』

キャサリン・カウソーン　文　　サラ・オギルヴィー　絵
万木森　玲　訳　　原口　るみ　監修
岩崎書店

『おしゃべりねずみ　ゴル・ゴ～ン・ゾラ』

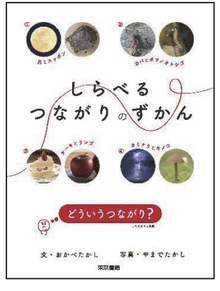
小森　香折　作　　平澤　朋子　絵
偕成社



たなからチーズを全部落としてしまったマットは、こまりはてていました。店長にみられたら、このチーズの一流店＜グルマン＞をくびになってしまいます。神さまにたすけをもとめると、「たすけてしんぜよう。」チーズ蔵に声がひびきわたりました。その声のぬしは、屋根うらにいた小さなねずみ「ゴル」でした。

『しらべる　つながりのずかん』

おかべ　たかし　文　　やまで　たかし　写真
サトウ　ミユキ　デザイン　　東京書籍



よの中の生きものや、ものどうしのさまざまな「つながり」を楽しむずかんです。たとえば、「トラ」と「つばさ」は、「とらにつばさ」ということわざでつながっています。これは「強いものにさらに強い力がそなわる」といういみです。

では、「アボカド」と「ワニ」にはどのようなつながりがあるでしょうか？

『それからぼくはひとりで歩く』

アリシア・モリーナ　作　　星野　由美　訳　　犬吠　徒歩　絵
ほるぷ出版



目の見えない１１さいの男の子、ハイメの生活は朝の音からはじまります。

ハイメにとって、音とにおいは欠かせないものです。いつもと同じ場所に同じものがあることも。ものがいつもと違う場所にあるだけで、ハイメは大変になってしまいます。そんなハイメの日常は、ぼうけんでいっぱいです。

『きいろいバス』

ローレン・ロング　作　　林　木林　訳　　あすなろ書房



きいろいバスがやってくると、こどもたちがのってきて、バスをよろこびでいっぱいにしました。つぎに、ろうじんたちがのって、バスをよろこびでいっぱいにしました。

時はながれ、だれもこないところにとめられたバスはからっぽでした。あるさむい日の夜までは。

このリストは、２０２５年に出版されたなかから３・４年生のみなさんにおすすめの本を掲載しています。

品川図書館	北品川２－３２－３	TEL 3471-4667 FAX 3740-4014
二葉図書館	二葉１－４－２５	TEL 3782-2036 FAX 3782-9430
荏原図書館	中延１－９－１５	TEL 3784-2557 FAX 3784-8951
南大井図書館	南大井３－７－１３	TEL 3761-6780 FAX 3768-7976
源氏前図書館	中延４－１４－１７	TEL 3781-6273 FAX 5702-4190
ゆたか図書館	豊町１－１７－７	TEL 3785-6677 FAX 5702-4035
大井図書館	大井５－１９－１４	TEL 3777-7151 FAX 3777-4970
五反田図書館	西五反田６－５－１	TEL 3492-2131 FAX 3492-4995
大崎図書館	北品川５－２－１	TEL 3440-5600 FAX 3440-5604
大崎図書館分館	大崎３－１２－２２	TEL 3491-3430 FAX 3491-3291
八潮図書館	八潮５－１０－２７	TEL 3799-1414 FAX 3790-3442
大崎駅西口 図書取次施設 （おおさきこども図書室）	大崎２－１１－１ 大崎ウィズシティテラス２階	TEL 5487-6551 FAX 5487-6588

休館（所）日、開館（所）時間などは、各図書館・取次施設におたずねください。

このリストの書影は、各出版社の許諾を得て使用しています。

2026.10　発行

品川区立図書館

『子ねずみウォルターはのんびりや』

マージョリー・フラック　作・絵　　おびか　ゆうこ　訳

徳間書店



すえっ子ネズミのウォルターはのんびり屋。あまりにものんびりしているので、引っこすときにいないことに気がついてもらえませんでした。

家族をさがすぼうけんに出ますが、森でまよい、泣いていると、歌声が聞こえてきました。歌声をたどると、たくさんのカエルがいました。ウォルターは家族をさがしながら、しばらくカエルたちと暮らすことになります。

『泣き虫　ビンゴ！』

木内　南緒　作　　森田　るり　絵

岩崎書店



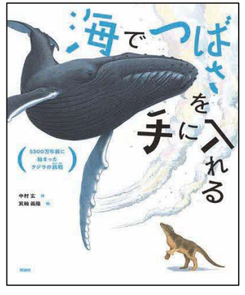
ツヨシは泣き虫がなおらない小学３年生。今日も、なみだをぽろりとながすと、見たこともない虫がほっぺたに。なんとその虫は言葉を話し、なみだを集めて必要な人へとどける仕事をしていると言います。

ツヨシはなみだ集めを手伝うことになりますが…。

『海でつばさを手に入れる

５３００万年前に始まったクジラの挑戦』

中村　玄　作　　箕輪　義隆　絵　　理論社



いまから５３００万年前、きょうりゅうがほろび、ほにゅう類の時代がやってきました。大がた犬のようなパキケタスは水べの魚をつかまえることがとくいでした。そのしそんは海の中に入り、多くの時間をすごすうちに、前足はむなびれとなり、自由に泳ぐためのつばさとなりました。それが今のクジラです。

『じいちゃんの赤いスニーカー』

本田　有明　作　　しらこ　絵

佼成出版社



小学３年生の翔平は、目の見えないおじいさんをたすけて、なかよくなります。おじいさんは、見えないはずなのに、いろんなものが見えているみたいな「スーパーじいちゃん」でした。

翔平はおじいさんのために、はでな赤いくつをえらびます。年のはなれたふたりの、ほっこりとした交流をえがきます。

『みんなをつなぐ　アイヌの糸』

横塚　眞己人　写真と文

ほるぷ出版



「アットゥシ」というアイヌの伝統的な布の材料は木の皮。かたい木の皮から糸を作り、やわらかい布がおられていく様子を写真と文で紹介します。

作り手の雪子さんは、糸には素直なものもあれば、弱いもの、ひねくれているものもあって、それをしっかり結んであげて、１本の糸にしていくのだと語ります。

『まぼろしの動物　ニホンオオカミ

小学生、なぞのはくせいの正体を追う』

たけたに　ちほみ　文　　川田　伸一郎　監修

Ｇａｋｋｅｎ



ぜつめつ動物について調べるのが大好きな日菜子さんは、博物館のイベントで、ニホンオオカミににたはくせいを見つけます。今までに世界で５体しか見つかっていないのですが、これが６体目だとしたら大発見？！

日菜子さんがはくせいの正体を調べてたどりついた、おどろきの真実とは…？

『イタチと野ネズミのはなし』

山下　雅洋　文　　しもかわら　ゆみ　絵

アリス館



森で出会ったイタチと野ネズミ。野ネズミはたべられてしまうの？とおもいきや、イタチはいっしょにくらしはじめます。野ネズミはりょうりがじょうずで、おいしいりょうりを作ってくれます。

そんなふしぎなまい日をすごす中で、野ネズミにじけんがおきます。イタチはどうするのでしょうか？

『おおわる　おおかみ　おとぎ話をかがくする』

キャサリン・カウソーン　文　　サラ・オギルヴィー　絵

方木森　玲　訳　　原口　るみ　監修　　岩崎書店



おとぎ話のおおかみは、子ぶたがたてたわらの家をふきこわします。でもじっさいには、おおかみはくちびるを丸めていきをふくことができないし、わらの家もじょうぶなので、ふきとばされることはないのです。

ほかにもシンデレラなど、いろいろなおとぎ話を科学てきに考えます。